

News Letter

2017
Summer issue

平成 29 年 8 月 5 日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Division of Sociology of Physical Education and Sport*



静岡大学と富士山

写真出所：<http://www.abp.icsu.shizuoka.ac.jp/eng/about/>

日本体育学会 体育社会学専門領域

事務局：

〒352-8558

埼玉県新座市北野 1-2-26

立教大学コミュニティ福祉学部

松尾哲矢 研究室内

Tel & Fax: 048-471-7345

E-mail: tmatsuo@rikkyo.ac.jp

< 目 次 >

2017 年度総会のご案内	1
2017 年度研究会のご案内	1
第 68 回大会スケジュール	3
一般・ポスター発表プログラム	3
キーノートレクチャー	7
シンポジウム	7
第 68 回大会発表形式	8
論文集検討プロジェクト報告	8
事務局より	8

2017年度 専門領域総会のご案内

このたびは体育社会学専門領域総会を下記要領にて開催することになりました。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日時：2017年9月9日（土）12:00～13:00（第68回大会2日目）

会場：静岡大学静岡キャンパス A301 教室

2017年度 専門領域研究会のご案内

テーマ『体育社会学における学校体育研究の成果と課題』

1. 目的

（一社）日本体育学会体育社会学専門領域の研究の恒常的な振り返りと検証、さらに今後の研究の方向性を考究し、体育社会学専門領域会員相互の研究交流を促進することを目的として開催する。

2. 日時

2017年9月7日 13:00～17:00

3. 会場

静岡駅前会議室 B301

http://kaigishitsu-shizuoka.com/yoyaku/room_B301.html

住所 静岡市葵区紺屋町 8-12 内野ビル （JR 静岡駅から徒歩 3 分）

4. 趣旨

昨年の体育社会学専門領域プレセッションは、「体育社会学の今後の在り方について考える」というテーマで開催され、体育社会学の独自性について議論がなされた。なかでも井上俊先生のキーノートレクチャーにおいて、体育社会学の独自性は、「教育の一環としての体育を社会学すること」と対象に対する関心が核にあると強調された。しかし1991年にスポーツ社会学会が設立される前後から、「体育」という問題関心からは「学校」へのまなざしが弱くなってきている。

一方で2017年3月に新学習指導要領が示されたこともあり、学校体育は新たな転換期に差しかかっている。そのような社会的な変化がある現在だからこそ、改めて「学校」に焦点をあて、体育社会学が「学校における体育」に対して、これまで何を成果として蓄積し、また何を新たな課題や可能性として取り上げることができるのかについて議論を深めることが必要であるように思われる。

そのために、以下の観点から問題提起をいただき、議論を深めていくこととしたい。まず、体育社会学がこれまでどのような知見を蓄積し、どのような今後の可能性を秘めているのかを探るという観点。次に「体育科教育学」が成立したことによって起こった「体育」を対象とした研究の変化という観点。そして三つめとして、「学校体育」は、教育的な営みの中でスポーツを実践するという構造を抱えていることに起因する、教育とスポーツの関係を問い続ける社会学的分析からの観点。最後に近年「体育と学校」をめぐる噴出している様々な現代的課題について生涯学習という観点から、の4つである。

5. プログラム

13:30~13:45 代表挨拶

菊 幸一 (筑波大学)

13:50~15:20 パネルディスカッション

観点①体育社会学における「学校」と「体育」ー部活動を中心にー

中澤篤史 (早稲田大学)

観点②体育社会学における「学校」と「体育」ー学習指導を中心にー

松田恵示 (東京学芸大学)

観点③社会学(スポーツ社会学)における「体育」と「スポーツ」

西山哲郎 (関西大学)

観点④教育学(教育社会学)における「体育」と「スポーツ」

阿部耕也 (静岡大学)

司会 石坂友司 (奈良女子大学)・原祐一 (岡山大学)

15:20~15:30 休憩

15:30~17:00 討論

18:00~20:30 懇親会 (会場は調整中です)

6. 参加費

無料

懇親会費: 4,000円 (学生 3,000円) いずれも予定

7. 参加申込方法:

下記内容を以下のアドレスまでお知らせください。

E-mail: mizukami5.h@gmail.com (事務局次長 水上(日本大学))

- | | |
|---|--------------------|
| ① | 研究会 (参加します・参加しません) |
| ② | 懇親会 (参加します・参加しません) |
| ③ | 専門領域 (会員・非会員) |
| ④ | 氏名 |
| ⑤ | 所属先 |
| ⑥ | メールアドレス |

8. 参加受付〆切日時:

2017年8月31日(木) 17時まで

問い合わせ先:

研究会に関してご不明な点がございましたら、下記事務局までご連絡ください。

体育社会学専門領域

事務局長 松尾哲矢 E-mail: tmatsuo@rikkyo.ac.jp

事務局次長 水上博司 E-mail: mizukami5.h@gmail.com

第 68 回大会スケジュール

1. 大会日程 2017年9月8日(金)～10日(日)

2. 開催会場 グランシップ/静岡大学

3. 体育社会学専門領域プログラム

<9月8日(金)(1日目)>

18:00-19:00 評議員会(1003)

<9月9日(土)(2日目)>

9:00-11:50 口頭発表①～⑥(A301/A302)

9:00-12:00 ポスター発表(体育館)

12:00-13:00 総会(A301)

13:00-14:00 キーノートレクチャー(A301)

14:15-16:45 シンポジウム(A301)

<9月10日(日)(3日目)>

9:00-12:15 口頭発表⑦～⑫(A301/A302)

13:00-15:50 口頭発表⑬～⑰(A301/A302)

第 68 回大会一般発表・ポスター発表プログラム

—*—

口頭発表①/会場 A301

座長：田中暢子(桐蔭横浜大学)

9:00 東明有美(関東学園大学)

「イスラムとスポーツの関係に関する研究の動向」

9:25 上代圭子(東京国際大学)

「イスラム系在日外国人のスポーツ・ライフに関する調査研究」

口頭発表②/会場 A302

座長：山本理人(北海道教育大学)

9:00 曾我部晋哉(甲南大学)

「柔道実施者の保護者に対する柔道のイメージ調査」

9:25 北村尚浩(鹿屋体育大学)

「中学校の武道授業におけるインパクト機能・逆機能に着目して」

口頭発表③/会場 A301

座長：奥田睦子(京都産業大学)

10:00 工藤保子(大東文化大学)

「わが国のスポーツボランティア戦略を概観する」

10:25 山田力也(西九州大学)

「身体障害者スポーツ実施者からみたボランティアに対する意識及び関係性に関する研究」

口頭発表④／会場 A302

座長：杉本厚夫（関西大学）

10:00 仲間厚人（東京学芸大学大学院）

「スポーツと『高校生』に関する物語分析」

10:25 中山健二郎（立教大学大学院）

「高校野球における「カーニヴァル」的メディア受容態度と伝統的「物語」の再生産に関する研究
－「女子マネージャー制止問題」の分析から－」

口頭発表⑤／会場 A301

座長：黒須充（順天堂大学）

11:00 橋本剛幸（近畿大学生産理工学部）

「スポーツへの意識と防災への意識の融和をめざしたコミュニティ・スポーツ形成に向けての
取り組み－和歌山県岩出市におけるスポーツイベント実施から見えてきたこと」

11:25 谷口勇一（大分大学）

「地方自治体におけるスポーツ行政は部活動改革動向とどう向かい合ってきた（いる）のか
－総合型クラブ育成を担当した元指導主事（教員）の意識からみえてきた行政文化の諸相－」

口頭発表⑥／会場 A302

座長：大沼義彦（日本女子大学）

11:00 高峰修（明治大学）

「スポーツ指導に伴う暴力に関する日本成人の意識」

11:25 片岡尚也（岡山大学大学院）

「マス・メディアが表象する学校運動部活動を巡る不祥事

ポスター発表／会場 体育館

座長：神野賢治（富山大学）

9:00 佐藤馨（びわこ成蹊スポーツ大学）

「女性スポーツ指導者登用を阻害する社会心理的要因に関する研究
－男性サッカー指導者の視点による阻害要因の検討－」

9:00 石田京子（筑波大学大学院）

「女子硬式野球における競技継続の要因について－指導者の及ぼす影響に着目して－」

9:00 加藤恵子（名古屋文理大学短期大学部）

「愛知県私立短期大学体育大会参加が学生生活に及ぼす効果(1)－体育大会の効果の検証－」

9:00 星野秀樹（愛知文教女子短期大学）

「愛知県私立短期大学体育大会参加が学生生活に及ぼす効果(2)－参加者のサークル活動の実態－」

11:50 P. RAVI KUMAR, (インド体育学会)

「ROAD MAP TO 2020 OLYMPICS –INDIAN CONTEXT」

口頭発表⑫／会場 A302

座長：秋吉遼子（東海大学）

11:00 宮本幸子（笹川スポーツ財団）

「小学生の組織的な運動・スポーツへの参加阻害要因に関する研究

–母親の意識の分析をもとにして–」

11:25 松村雄樹（神戸大学大学院）

「運動・スポーツ実施希望者の実現要因に関する研究–テキストマイニングによる解析–」

11:50 中山健（大阪体育大学）

「高齢者の身体活動実施に関わる社会・心理的要因

–トランスセオレティカルモデル構成要素を用いた分析モデルの追試–」

口頭発表⑬／会場 A301

座長：迫俊道（大阪商業大学）

13:00 裴洵奏（兵庫教育大学大学院）

「男子サッカー選手に抱くイメージに関する研究–他競技の選手との比較を通して–」

13:25 岡田泰徳（東京学芸大学大学院）

「スポーツという『キャラ』とアイデンティティの消費

–『アメトーク!』にみられるメディア分析を通して–」

口頭発表⑭／会場 A302

座長：久保和之（龍谷大学）

13:00 中嶋清之（筑波大学大学院）

「高校野球部員における学校生活スキルと心理的競技能力との関連」

13:25 金森史枝（名古屋大学大学院）

「大学時代の体育系正課外活動への参加が社会人生活に及ぼす影響

–体育会運動部と体育系サークルとの所属の違いに着目して–」

口頭発表⑮／会場 A301

座長：石坂友司（奈良女子大学）

14:00 有山篤利（兵庫教育大学大学院）

「柔の原理の変質と柔道のスポーツ化」

14:25 高平健司（筑波大学大学院）

「有機体の哲学の系譜を汲む嘉納柔道思想『精力善用自他共栄』と

その構成理論である三宅雪嶺の宇宙有機体説–嘉納柔道思想と三宅の宇宙有機体説の固有性と普遍性–」

口頭発表⑯／会場 A302

座長：前田和司（北海道教育大学）

14:00 近藤誓（東京学芸大学大学院）

「『信頼』と『競艇』に関する社会学的一考察-フィールドワークをもとに-

14:25 西菜月（東海大学大学院）

「体操競技における審判員の現状-大学生が持つ審判活動のイメージについて-

口頭発表⑰／会場 A301

座長：渡正（順天堂大学）

15:00 斎藤貴博（東京学芸大学大学院）

「教育支援センターにおけるスポーツ活動と経済的環境」

15:25 速水徹（筑波大学大学院）

「ブラインドサッカーにおける視覚障害者と晴眼者のコミュニケーションに関する研究」

第 68 回大会専門領域キーノートレクチャー

日 時：2017年9月9日（土） 13:00～14:00

会 場：静岡大学共通教育 A301

テーマ：地域スポーツのこれまで、そして、これから

演 者：中島信博（東北大学名誉教授）

第 68 回大会専門領域シンポジウム

日 時：2017年9月9日（土） 14:15～16:45

会 場：静岡大学共通教育 A301

テーマ：2020年東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツ環境を考える②

—総合型地域スポーツクラブから見る地域スポーツの可能性と未来—

司 会：清水諭（筑波大学）、石坂友司（奈良女子大学）

コメンテーター：中島信博（東北大学名誉教授）

演 者：関根正敏（作新学院大学）

地域スポーツの視点から見た現在のスポーツ政策

—総合型クラブ政策にみられる理念と実体の乖離について—

伊倉晶子（志木市放課後子ども教室『宗岡りんくす』市民運営組織代表、共栄大学客員准教授）

市民が当事者となりえる仕組み—総合型クラブ・放課後子ども教室—

高田昭彦（成蹊大学名誉教授）

地域スポーツの「地域」とは何か？—コミュニティづくりにおけるスポーツの役割—

第 68 回大会発表形式

- ・第 68 回大会における本領域の発表数は、口頭発表 36 演題、ポスター発表 4 演題です。
- ・口頭発表は 1 演題あたり 25 分間（発表 15 分間、質疑応答 10 分間）です。
- ・ポスター発表では座長の進行により、各自 10 分間のプレゼンテーション後、設定時間内でのフリーディカッションを行います。
- ・詳細につきましては第 68 回大会プログラムをご参照ください。

専門領域名	形式	発表時間	質疑・応答時間
体育社会学	口頭	15	10
	ポスター	10	時間内フリーディカッション

論文集検討プロジェクト報告

2017 年 3 月 19 日に開催された体育社会学専門領域の評議員会において、松尾事務局長より論文集に関する過去の経緯について説明がありました。さらに清水論文集検討プロジェクト代表からプロジェクトメンバーでの議論の内容が報告されました。今年度の総会では、会員のみなさんに論文集に関する具体案を提案し審議していただく予定です。（論文集検討プロジェクト代表 清水諭）

事務局より

1. 会員動向

体育社会学専門領域の会員数は、2017 年 5 月 29 日現在 402 名です。

2. 会員情報変更

日本体育学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移動、住所・所属などの変更があった場合には、すみやかに「会員情報変更届」（『体育学研究』に添付）を学会本部事務局に FAX または封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。

3. 会則および諸規程等の改訂版について

諸規程等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

事務局メールアドレス（松尾） tmatsuo@rikkyo.ac.jp
（水上） mizukami5.h@gmail.com

4. 2018 年度学会大会について

日本体育学会大 69 回大会

日程：2018 年 8 月 24 日（金）、25 日（土）、26 日（日）

会場：徳島大学

あとがき

今年度より2年間、北海道教育大学の石澤伸弘会員とともに専門領域の広報委員会を担当させていただくことになりました。よろしくお願い申し上げます。

この一年間の動向の一つとして、スポーツ庁が大学スポーツの振興に取り組み始めたことがあります。馳元文部科学大臣の下で「大学スポーツの振興に関する検討会議」が設置され、2016年8月に中間とりまとめが、2017年3月には最終とりまとめがそれぞれ公表されました。またそこでの議論は、やはり2017年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」にも反映されています。

それらの内容については今後、本専門領域をはじめとする関連学会等において議論され、総括されることを期待します。一点だけおさえておきたいのが、本専門領域の会員の多くが所属する“大学”という場が政策課題にあがっていることです。こうした政策の流れの中で、大学に所属する会員は、各大学における施策検討の場において情報を提供し、方向性を示す中心人物になることが期待されるのではないのでしょうか。

社会においてスポーツに関する議論が急展開している現在、本専門領域がどのように、どれほどの役割を果たせるのか、試されているともいえるでしょう。本専門領域の活動がより活発化し、その成果が社会に還元されるのを願ってやみません。そしてその中で、“体育”社会学のアイデンティティも見えてくるのかもしれませんが。(高峰修)